

外貨建有価証券の換算、在外支店の財務諸表項目の換算、在外子会社の財務諸項目の換算といった論点は、1級で学習します。2級では、本テキストで紹介する取引等を円建てで仕訳ができるようになれば、十分です。

1. 仕入取引に係る換算

1-1 期中取引

期中取引については、「この仕訳以外にやりようがない」と思います。外貨建取引というと、少し身構えてしまいましたが、すぐに、マスターできる仕訳です。

- ① アメリカから商品 100ドルを掛けで輸入した。仕入日の為替レート（直物レート）は、105円/ドルであった。

(借) 仕入	@105 × 100	(貸) 買掛金	@105 × 100
--------	------------	---------	------------

- ② 買掛金の決済日に 100ドルを現金で支払った。決済日の為替レート（直物レート）は、108円/ドルであった。

(借)		(貸)	

- ③ アメリカから商品 100ドルを輸入する契約を締結し、前渡金として 20ドルを現金で支払った。前渡金支払時の為替レート（直物レート）は、110円/ドルであった。

(借) 前渡金	@110 × 20	(貸) 現金	@110 × 20
---------	-----------	--------	-----------

- ④ ③の商品 100ドルを輸入し、前渡金 20ドルを控除した 80ドルは掛けとした。仕入日の為替レート（直物レート）は、112円/ドルであった。

(借)		(貸)	

下書きを作成する場合に、下のイニシャルを利用すると便利です。

取引日レート : SR (Spot Rate、直物レート)
HR (Historical Rate)

決算日レート : CR (Current Rate)

予約レート : FR (Forward Rate)

期中平均レート : AR (Average Rate)・・・2級では使用しません。

1-2 期末評価

(1) 期末買掛金の評価

期末の買掛金残高は、日本円による決済が未だ行われていない、為替リスクを含んだ金額です。そこで、財務諸表の利用者に、期末時点で日本円にして幾らの未決済債務があるのかを適正に表示するために、決算日レートで換算することになっています。

〔 買掛金の決算整理前残高 49,000円 (500ドル)
 期末日レート： @100円/ドル

(決算整理仕訳)

(借)		(貸)	
-----	--	-----	--

期末B/S 買掛金 = @100円/ドル × 500ドル = 50,000

∴ 為替差損益 = 49,000円 - 50,000円 = △ 1,000円

(2) 期末前渡金の評価

期末の前渡金残高は、日本円による決済は既に行われおり、為替リスクは含まれません。従って、評価替えを行う必要はありません。

〔 前渡金の決算整理前残高 9,800円 (100ドル)
 期末日レート： @100円/ドル

(決算整理仕訳)

仕訳なし

2. 売上取引に係る換算

2-1 期中取引

仕入取引と同様、すぐにマスターできるはずですよ。

- ① アメリカへ商品 100ドルを掛けで輸出した。販売日の為替レート（直物レート）は、105円/ドルであった。

(借) 売掛金	@105 × 100	(貸) 売上	@105 × 100
---------	------------	--------	------------

- ② 売掛金の決済日に 100ドルを現金で受け取った。決済日の為替レート（直物レート）は 108円/ドルであった。

(借)		(貸)	
-----	--	-----	--

- ③ アメリカへ商品 100ドルを輸出する契約を締結し、前受金として 20ドルを現金で受け取った。前受金受取時の為替レート（直物レート）は、110円/ドルであった。

(借) 現金	@110 × 20	(貸) 前受金	@110 × 20
--------	-----------	---------	-----------

- ④ ③の商品 100ドルを輸出し、前受金 20ドルを控除した 80ドルは掛けとした。販売日の為替レート（直物レート）は、112円/ドルであった。

(借)		(貸)	
-----	--	-----	--

2-2 期末評価

(1) 期末売掛金の評価

期末の売掛金は、買掛金同様、日本円による決済が未だ行われていないため、為替相場の変動によるリスクを含んでいます。従って、期末時点で日本円にして幾らの未決済債権があるのかを適正に表示するために、決算日レートで換算することになっています。

（ 売掛金の決算整理前残高 49,000円（500ドル）
 期末日レート：@100円/ドル

（決算整理仕訳）

(借)		(貸)	
-----	--	-----	--

期末B/S 売掛金 = @100円/ドル × 500ドル = 50,000

∴ 為替差損益 = 50,000円 - 49,000円 = 1,000円

(2) 期末前受金の評価

期末の前受金残高は、日本円による決済は既に行われおり、為替リスクは含まれません。従って、評価替えを行う必要はありません。

（ 前受金の決算整理前残高 9,800円（100ドル）
 期末日レート：@100円/ドル

（決算整理仕訳）

仕訳なし

3. 期末換算（参考）

2級における出題可能性は、それほど高くないと思いますが、貸借対照表項目について、換算基準を示しておきます。

決算日レート（CR） で換算するもの	通貨・預金 未収収益	金銭債権債務 未払費用等			
取引日レート（HR） のままでよいもの	棚卸資産 前受収益	固定資産 前払費用等	繰延資産	前渡金・前受金	

4. 為替予約に係る換算

1級では、通貨スワップ及び通貨オプションなどの論点が含まれるため、難しくなりますが、2級では、ここで紹介する仕訳をマスターしておけば、十分です。

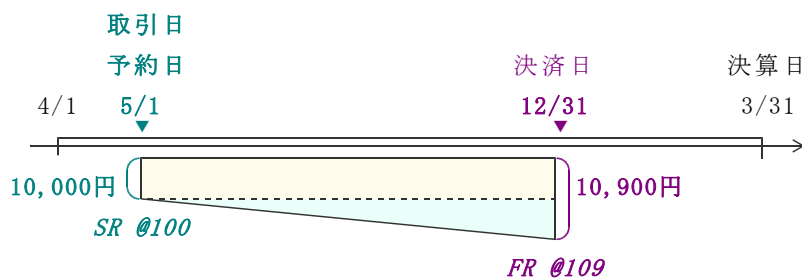
4-1 資金の貸付け、借入れに係る取引

- ① 5月1日に米国の取引先に対し、8ヶ月後に返済を受ける約定で100ドルを貸付けるとともに、予約レート109円/ドルで為替予約を行った。なお、5月1日の直物レートは100円/ドル、決算日は3月31日である。

(借)		(貸)	

- ② 約定通り、12月31日に貸付金100ドルの弁済を受けた。

(借)		(貸)	



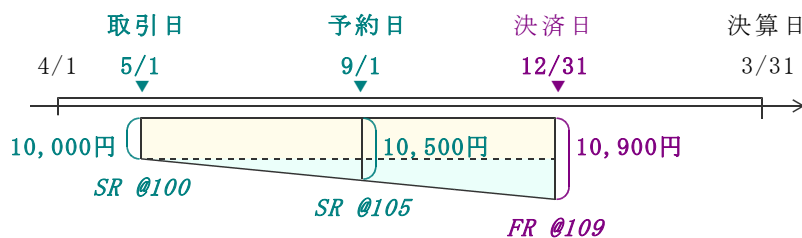
- ③ 5月1日に米国の取引先から8ヶ月後に返済する約定で100ドルを借り入れた。なお、5月1日の直物レートは100円/ドルであった。

(借)		(貸)	

- ④ 9月1日に予約レート109円/ドル(決済日12月31日)で100ドルの為替予約を行った。なお、9月1日の直物レートは105円/ドル、為替予約については、振当処理を行う。

(借)		(貸)	

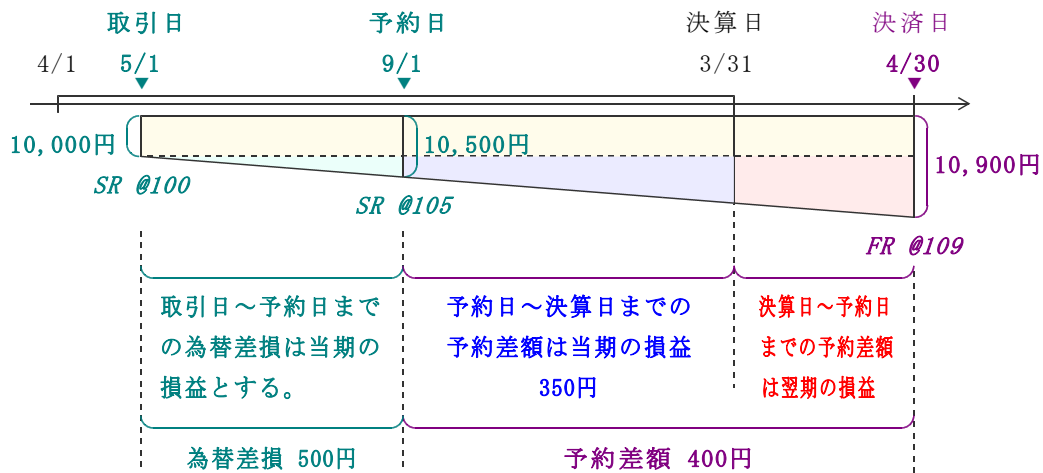
2級では、借入と為替予約を独立した取引として処理(独立処理)する方法は出題されないため、予約日に予約レートで借入金を再換算します(振当処理)。



- ⑤ 約定通り、12月31日に借入金100ドルを返済した。

(借)		(貸)	

(参考) 決済日が決算日以降の場合 ~ 1級の範囲です。



取引日	(借) 現金	@100 × 100	(貸) 借入金	@100 × 100
予約日	(借) 為替差損益	(@105 - @100) × 100	(貸) 借入金	(@109 - @100) × 100
	前払費用	(@109 - @105) × 100		
決算日	(借) 為替差損益	※ 350	(貸) 前払費用	350

※ 350円 = 予約差額 (前払費用) 400円 × 7ヶ月/8ヶ月

4-2 仕入、売上に係る取引 (振当処理)

- ① 5月1日に米国の取引先に対し、100ドルの商品を掛けて輸出販売するとともに、売上債権の回収日である12月31日付けの為替予約を予約レート 109円/ドルで行った。なお、5月1日の直物レートは 100円/ドル、決算日は3月31日である。

(原則)

(借) 売掛金	@109 × 100	(貸) 売上	@100 × 100
		為替差損益	900

(容認)

(借) 売掛金	@109 × 100	(貸) 売上	@109 × 100
---------	------------	--------	------------

- ② 5月1日に米国の取引先から100ドルの商品を掛けて輸入仕入するとともに、仕入債務の支払日である12月31日付けの為替予約を予約レート 109円/ドルで行った。なお、5月1日の直物レートは 100円/ドル、決算日は3月31日である。

(原則)

(借) 仕入	@100 × 100	(貸) 買掛金	@109 × 100
為替差損益	900		

(容認)

(借) 仕入	@109 × 100	(貸) 買掛金	@109 × 100
--------	------------	---------	------------